

「つくばショートムービーコンペティション」 10周年に寄せて

十年あつという間、という感じでもありません。会場は何度も変わったし。流浪の映画祭、という言葉が浮かんだ時期もあります。けれど何年目からか、審査員や実行委員の方々、そして観客の皆様と一年ぶりに再会した瞬間、思わず顔がほころんでいました。どんなことでも大事なものは「人」なんだと、改めて思います。第一回から言っている「面白がって撮ってください！」というのは今も変わりません。小さいけど元気な映画祭です。今後ともよろしくお祈りします。



特別審査員長
中村 義洋 監督

▶ 事業の始まった経緯

「つくばショートムービーコンペティション」は、筑波研究学園都市の誕生50周年を記念し、2012年につくば市、つくば市民、公益財団法人つくば市文化振興財団、筑波学院大学との共催でスタートしました。つくば市からの文化発信と次世代の才能の発掘を目指し、10分以内の短編映像の公募を行うもので、民・産・官・学の共催イベントは、全国でも非常に稀です。

第1回の審査員は、つくば市出身の映画監督中村義洋氏、つくば市長、筑波学院大学学長が担当し、つくば市民より募集した50名の市民審査員によって観客賞を選考しました。

▶ 事業の変遷

2015年から2019年にかけて、グランプリ受賞者は、つくば市の姉妹都市であるフランス・グルノーブル市で例年7月に開催される屋外短編映画祭へ招待・特別上映されました。

現在では、実行委員会主催のイベントとなり、記念すべき第10回のコンペティションを新たな形でスタートしています。

これまでの上映会・授賞式の様子



歴代上映会の詳細

	実施日時	上映会場
第1回	2013年11月10日(日)	イーアスつくば
第2回	2015年3月21日(土)	西武筑波店6階 つくば西武ホール
第3回	2016年3月5日(土)	つくばサイエンス・インフォメーションセンター
第4回	2017年3月5日(日)	つくばイノベーションプラザ
第5回	2018年2月24日(土)	筑波学院大学
第6回	2019年3月2日(土)	つくばイノベーションプラザ
第7回	2020年2月29日(土)	つくば文化会館アルス (※新型コロナウイルス感染症の影響により、審査会のみの実施)
第8回	2021年2月27日(土)～ 3月7日(日)	オンライン開催
第9回	2022年2月26日(土)	つくばエキスポセンター
第10回	2023年2月25日(土)	つくばエキスポセンター



つくばショートムービーコンペティション
これまでの事業



歴代グランプリ受賞作品特集

これまでの作品は上記QRコード、つくば市文化芸術ポータルサイト「つくばアートチャンネル」からも御覧いただけます。
※制作者の意向により、一部のみ公開の作品もございます。



第1回
グランプリ 「REAL VALENTINE」
高島 瑛彦

いつの時代も学生は悩み苦しんでいる。そんな彼らに救いの手を差し伸べる秘密組織がこの大学にある。その名は「特殊部隊：学生支援室」今、彼らと学生が織りなす壮大な物語が始まる！



受賞者コメント

「REAL VALENTINE」は10年前、私がつくば市に住んでいるときに感じた若者特有の悩みを過大に、真剣に、感情高く描いた作品です。是非、つくば発だからこそその高い熱量のある作品が今後も生まれることを期待しています！

第2回
グランプリ 「岐路」
大石 結介／上田 謙太郎

落ち込んだ時に、無理に頑張れとか言わずに、話を聞いてくれて、自分で前を向けるようになるまで傍で自然に笑っていてくれる、そんな「男の友情」。



受賞者コメント

授賞式でグランプリを受賞し、登壇した時の景色は今でも忘れられません。また、映画祭のサポートもあり、グルノーブルに行けた事は、その後の作品作りにとっても大きな影響があり、その機会をいただけた事に大変感謝しております。

第3回
グランプリ 「友だちのカタチ」
2015 情報 B

仲の良い女子大生4人組。ある日、今流行っているという「サイコパス診断」をすることに。偶然にも1人だけ、答えがサイコパスだったことで3人は僅かながらも恐怖を感じた。しかし、それは始まりにすぎなかった…。



受賞者コメント

「友だちのカタチ」は東京家政学院大学・生活デザイン学科の授業である、マルチメディア演習Bで制作した作品です。制作した学生7人中3人は、現在も映像制作会社で活躍しています。これからもコンペティションの発展を心より応援いたします。

第4回
グランプリ 「前世、河童」
知多 良（高橋 良多）

カコは夢で自分の前世が河童だったことを思い出す。その前世でカコは、河童の恋人と生まれ変わってももう1度一緒になろうと約束したことを思い出す。カコは友達のマコと彼を探すため大和市の様々な場所を探しまわる。

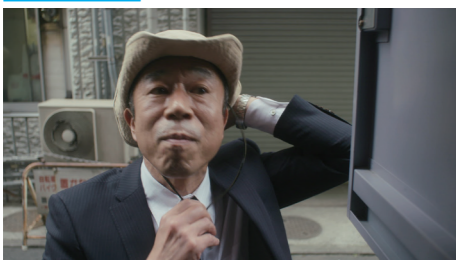


受賞者コメント

「前世、河童」は運命を信じ、恋に敗れ、また運命を信じてしまう人の物語です。この映画でグランプリを頂きフランスの映画祭に招待され、たくさんの方に会えました。そんな素敵な偶然に出会えるコンペティションです。

第5回
グランプリ 「つれない男」
小川 貴之

その男は川へ行く。妻に内緒で釣りに行く。素人の釣り人をあざ笑い、ただひたすら釣るのだった…。好きなことに依存する後ろめたさと滑稽さを表現した、ちょっとだけ奇妙な話です。



受賞者コメント

賞を頂いて自分の創作を認めてくれる方がいることにとても救われました。作品応募はもちろんおすすめですが、創作意欲を刺激する街つくばは訪ねるたびに次に繋がる何かと出会えます。シナハンへ、また帰筑します。

第6回
グランプリ 「雪と、傘と、あの日の写真。」
菊地 貫太

高校三年生の優太は、自分の写真の才能と勉強に自信がなく、両方に諦めて感じていた。しかし、公園で出会った少女に写真を褒められることを通して徐々に自信を取り戻し、写真家になりたいという幼い頃からの夢を思い出す。諦めることをやめ、写真も勉強も頑張ってみようという決意を彼女に伝えたが、その日から彼女の姿を見ることはなくなった。



受賞者コメント

高校生の時に同賞を受賞して以来創作の道を夢見るようになり、現在は映画とは別の形で創作活動を続けております。このきっかけをくださった中村監督と関係者の皆様には感謝しかありません。今後もコンペティションの益々のご発展を願っております。

第7回
グランプリ 「ストレスフルスイング」
山村 もみ夫。

ストレス解消のためにバッティングセンターに来た男のストレスがどんどん溜まっていく話。



受賞者コメント

「ストレスフルスイング」がグランプリを頂いた2020年、残念ながらその年の上映会は中止になってしまったのですが、本当に大変な状況の中、審査会を実施してくださったこと、今でも感謝しております！また参加したいです！

第8回
グランプリ 「KA.TA.MI.」
タイム 涼介

新人女優カタミが希望を胸に映画のオーディションに挑むが、審査員が発する辛辣な「言葉の銃弾」が、カタミの心身を撃ち抜く。しかし、くじけそうなカタミを救うのもまた、大切な人たちが残した「言葉の形見」だった。



受賞者コメント

10周年おめでとうございます。いつも他の皆さんの作品を拝見すると心がこもっていてクオリティーが高く、怖気づきますが、「自分が見たい映画」というものを道しるべに今後も撮り続けて行きたいです！

第9回
グランプリ 「幸せな空気」
鹿野 洋平

茹だるような暑さの昼下がり。若いカップルの家へ壊れたエアコンの修理に来ている作業員の男性。彼は黙々と作業を続けるも、なんとカップルのあいだで別れ話が突然浮上して気まずいムードになってしまう。その時、思わぬ来訪者が現れて…。エアコンの空気、そして何より、気まずいこの部屋の空気を修復することは果たして可能なのだろうか！?

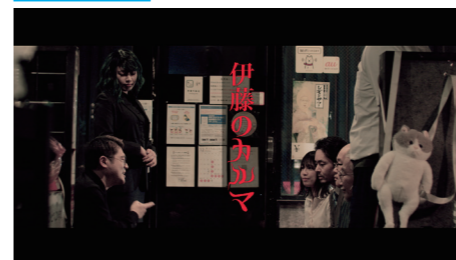


受賞者コメント

このたびは10周年おめでとうございます！地味でシュールな作風でもしっかりと作品を評価していただき、創作を続けていく勇気をいただきました。自分の好きなことを自分なりに掘り下げ、楽しみながら挑戦してみてください！

第10回
グランプリ 「伊藤のカルマ」
岡本 崇

アルバイト探していた伊藤とはある飲食店の店頭の募集広告を見つける。時給もかなり高く飲食の経験もあることから応募を決意、面接に臨むが何故か少しずつ噛み合わないまま予想外の結末を迎える…。



受賞者コメント

作り続けてきてよかった。この映画祭で改めてそう思えました。余りある創作意欲とかそういうなんか色々をいただいたので、いつか大きくなってこの場所に恩返しに戻って来れたらと思います。本当にありがとうございました！